

江戸時代からつづく「うつつみち」

春日井市内を通り、多治見へ続く峠部に、江戸時代から身近な民間信仰で参詣者が集まった内津の妙見様(内々神社)がある。「うつつ」の由来は、「日本武尊(やまとたけるのみこと)の東国平定の帰路、今の内津峠付近にさしかかった時に、副将軍であった建稲種命(たけいなだねのみこと)が亡くなった知らせを受け、日本武尊が、「現哉(うつつかな)、現哉」と嘆き悲しみ、建稲種を祀ったのが内々(うつつ)神社で、その付近を「うつつ(内津)」というようになったという伝説からきている。

小牧市内でも、本庄・大山・大草・二重堀など、江戸時代の道標を兼ねた石仏にも「うつつみち」を示すものが多く見られる。例えば、二重堀の旧道沿いにある文政6年(1823)の地藏菩薩には「左うつつみち」、同じく二重堀の駒越上橋のたもとにある馬頭観音には「東うつつみち」、高根一丁目の文化13年(1816)の地藏菩薩には「左はうつつみち」、大草



内々神社



地藏菩薩(二重堀)

地藏菩薩(高根)

大山廃寺跡(国指定史跡)

大山の集落中心の北側の山の中腹部に児(ちご)神社がある。その児神社を取り巻く山一帯に「謎の大山寺」と言われる大きな寺があった。昭和50年代はじめの発掘調査によりその概要が分かってきており、創建は白鳳時代(7世紀後半)とかなり古く、その後盛衰を繰り返しながら16世紀の室町時代まで続いた、大きな山岳寺院であったといわれる。伝説によれば、「大山三千坊」、「西の比叡山、東の大山寺」ともいわれ、かなり大きな寺であったことがうかがえる。

平安時代の終わり頃、宗教対立の原因からか京の僧兵による焼き打ちにあい、焼失とともに一時衰退した。しかし、平安時代末期には再建され徐々に復興していった。

その後、鎌倉時代13世紀には大きな本堂、山中にはたくさんの堂宇ができ、室町時代には最盛期を迎えるに至ったと伝えられている。



大山廃寺跡塔礎石

児神社

平安時代に大山寺が焼き打ちにあった際、犠牲になった二人の稚児僧の供養のために建てられたのが児神社である。



江岩寺

大山廃寺跡のある山の中腹に建つのが江岩寺である。大山寺の法灯を継ぐ寺といわれ、元亀2年(1571)の創建である。天台宗であったが信長の比叡山焼き打ちの累が及ぶのを避けるため臨済宗妙心寺派として開山した。



大山廃寺跡出土 軒丸瓦・軒平瓦

銅鉄千手観音菩薩立像
(市指定有形文化財)

編集/愛知文教大学地域連携センター

小牧市文化財地図作成委員会

委員:加藤憲吾、酒向道夫、篠田 徹、西川菊次郎、水野 弘
事務局:宮崎貴光

発行/小牧市教育委員会 小牧市堀の内三丁目1番地

小牧の旧道
ガイドマップ
うつつみち

令和4年3月31日

内々神社

中尾義祐

[尾張名所図会(内々神社)]

小牧の旧道

—ガイドマップ—

うつつみち

如意輪観音(大山)

今も残る旧道



野口から大山への道

小牧市教育委員会



Komaki

桃花台はそのむかし京の都に

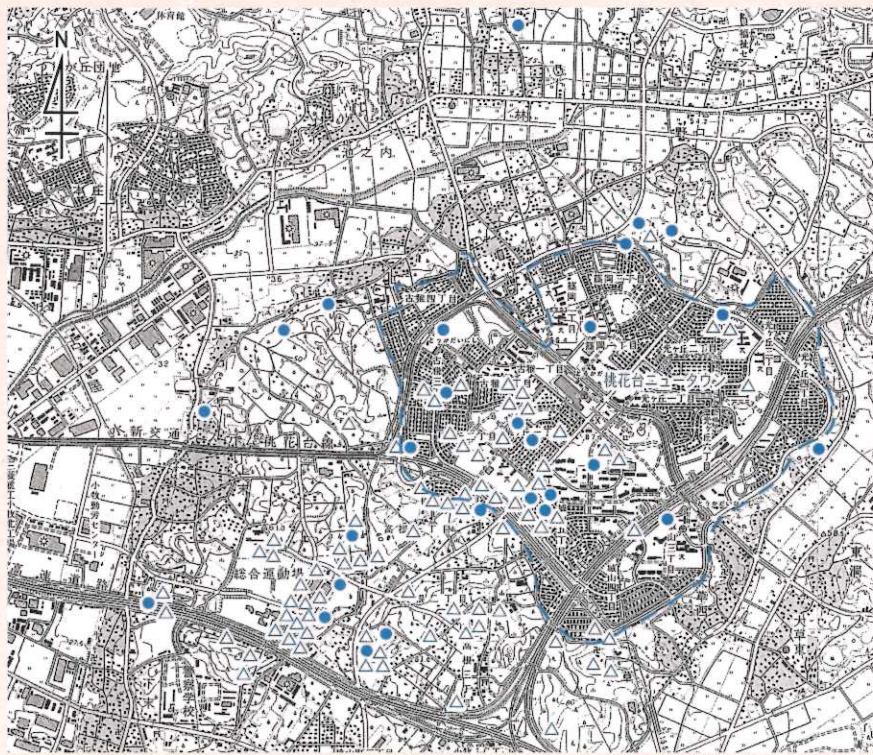
焼き物を送る一大窯業産地であった

(市HPより)

現在、桃花台ニュータウンがあるとこ
ろはちょうど旧篠岡村の中央部にあた
り、以前は低木の散在する丘陵地で、そ
の大部分は小高い山であった。

この丘陵地は古くから焼き物の生産
が盛んで、名古屋市東部の猿投窯から
続く尾北窯といわれる窯業の中心地で

あった。丘陵の斜面を利用して溝状の
穴を掘り、天井を粘土で覆う「あな窯」
と呼ばれる構造の窯で、110基以上
の窯跡が確認されている。ニュータウン
開発に伴って発掘調査された篠岡47号
窯が中央公園内に移設展示されてい
る。



篠岡古窯跡群 古窯分布図
(●は須恵器窯、△は灰釉陶器窯)



篠岡47号窯展示施設(桃花台中央公園)

この地域での焼き物の生産は、7世
紀から8世紀には須恵器と呼ばれる素
焼の焼き物であったが、9世紀後半に
なると灰釉陶器と呼ばれる木灰を原
料とした釉薬を施した薄緑色の焼き
物がつくられるようになり、東海地方
はもろん奈良や京都へも送られるよ
うになった。同時期に緑釉陶器とい
う緑色の釉薬を施した貴重な焼き物もつ
くられるようになり、大変珍しがられ
た。この篠岡産と見られる緑釉陶器は
畿内地方や東海地方で出土している。
篠岡古窯跡群は、10世紀から11世紀
前半にかけて最盛期を迎えるが、12世
紀には釉薬を施さない山茶碗をつくる
ようになり、12世紀前半には篠岡古窯
跡群での生産を終えた。



大山窯跡(大山)

「点なし大山」と いわれた大山焼

篠岡村誌によれば「陶器は明治5年
(八七二)大山に大山焼を開窯せし
のあり明治12年(八七九)に至り漸次
生産の歩を進め明治36年(一九〇三)に
は株式組織として斯業継続せり、然れ
共規模の狭小と交通のとは時代の趨勢
に当り難く遂に明治43年(一九一〇)止
むなく廃業するに至れり」と記されて
おり、これが大山焼である。

窯のあったところは大山の西部、現在
の「福祉の郷」がある場所で、平成6年
(一九九四)の発掘調査で連房式登り窯
2基、素焼き窯1基がつくられていたこ
とがわかった。焼き物の種類は豊富で、
茶碗、皿、花瓶から茶道具の風炉、水差
し、菓子器などもあり、陶器・磁器い
ずれにもおよんでいた。

名古屋コーチン誕生の地は

篠岡池之内村であった



明治になり
廃藩置県によ
り禄を失った
武士は、それ
までの職歴を
生かして官吏
・軍人・巡査・教
職員などに転

種として取り扱うことになり、広く世
に紹介された。
明治17年(八八四)には、名古屋に分
場を設けた。新種の養鶏法を学ぶため、
全国から来訪者があつたという。明治20
年代には全盛期を迎え羽数二千数百
羽という日本一の大養鶏場となつてい
た。順調に発展していたその矢先の明治
28年(八九五)、壮平は48歳で生涯を閉
じた。海部家と壮平の墓は、海部養鶏
場があつた池之内村西山に建てられた
が、桃花台の開発に伴い、大泉寺に移さ
れた。



海部養鶏場跡(池之内西山)

篠岡地区の

亜炭採掘

江戸時代から戦後しばらくまで、篠
岡地区では亜炭が採掘されていた。亜
炭とは石炭の一種で「川木」や「岩木」と
もいわれ、品質的には不純物を多く含
んでおり、熱量が小さいため工業用には
向かないものであつた。わが国でも明治
年間から各地で採掘され、家庭用燃料
として重宝された。特に大正時代から
太平洋戦争にかけての燃料不足のころ
は亜炭の需要が高まり、池之内から野
口、大山、さらには大草にまたがる篠岡
全体で、昭和中期に最盛期をむかえ、炭
坑の抗口が百以上あつたといわれる。野

口から、鷹ヶ池を通り、光ヶ丘三丁目の
入口付近までの道路を、地元の人々は炭
坑道路と呼んでいたが、ちょうどその周
辺に大きな炭坑がいくつもあつたため
である。

採掘した亜炭は、昔は馬車や牛車で
運んでいたが、後にオート三輪、トラク
クへと変わっていった。
亜炭の層は粘土層を挟みながら何層
にも重なっているため、深くなるほど採
掘は大変な作業であつたが、貴重な現
金収入を得ることができた。



亜炭運送業者建立の馬頭観音(池之内大泉寺内)

職した者もいたがそれはごく一部で、大
半の武士は新しい生業を求めて路頭に
迷った。そのため、藩では士族の授産所
を設けて各種講習を行った。その中に養
鶏部門があり、名古屋での「サムライ養
鶏」は有名であった。しかし、その頃の養
鶏は産業として軌道に乗ったものではな
く、本格的な産業養鶏の起ころは、名古
屋コーチンが作り出されてからである。
その名古屋コーチン誕生に奮闘した
のが、尾張藩士海部壮平・正秀兄弟であ
る。兄壮平は明治5年(八七二)25歳の
時、池之内村に移住した。壮平は、はじ
め生活のため、よろずやを開いたが、養
鶏に対する関心と弟のすすめもあり、
明治10年(八七七)ころには、養鶏をは
じめることになった。そして、試行錯誤の
末、明治15年(八八二)ごろ中国産パフ
コーチンと地鶏を交配して改良繁殖に
努め、理想に近い「鶏種を作り出した。
これが当初「海部種」や「薄毛」と言わ
れた、いわゆる「名古屋コーチン」で明治
38年(一九〇五)日本家禽協会が「新品



1 津島社



味岡小学校正門前の県道西100m程の三叉路を、南に折れた道端に、赤い祠に祀られている。

2 津島社



薬師川にかかる法印橋の西たもとに祀られている。地元の有志で毎年7月に例祭が行われている。

7 薬師寺と御千代保稲荷



曹洞宗薬師寺は大永元年(1521)創建。山門前の石碑には「御千代保稲荷普光山」とある。



稲荷神社

8 梅村勘助頌徳碑



江戸時代末期、梅村梅春が高野山参りの講を組織。大きな木の下に、信仰心を広めたことを讃えた碑がある。

9 馬頭観音



八所神社参道から内津道を渡った南の路傍に交通安全祈願の小さな馬頭観音がある。

10 八所神社参道と本庄の大杉



村人や旅人の目印となった「本庄の大杉」の傍りに津島社がある。参道を登ると八所神社がある。

小牧の旧道

—ガイドマップ—

うつつみち

— 街道
— 消えた街道

3 地藏堂



名鉄味岡駅南西の線路沿いにあり、保存の良い2体の地藏尊が安置されている。安永7年(1778)の文字を読むことができる。

4 辻の内遺跡(辻ノ内公園)



名鉄味岡駅東にある公園。この一帯で、鎌倉～室町期の集落跡が発掘された。

5 小松寺



真言宗の古刹。寺伝には天平年間に行基が開創したとある。小牧・長久手の戦いの兵火で伽藍が焼失。明暦3年(1657)に現在の本堂が建立された。

6 津島社



小松寺南東の本庄との境付近で、通路整備に伴い暗渠(あんきょ)になった入鹿用水路上に祀られている。

11 泉徳寺と松浦直女功德碑



曹洞宗泉徳寺は慶長元年(1596)創建。境内には秋葉社のほか、多数の石仏がある。霊園前に松浦直女が孝養を尽くし、文化元年(1804)領主から賞されたという碑がある。

12 本庄の石仏



本庄の交差点から北に入ると旧道になる。近くに本庄の石仏が14体並んでいる。

13 入鹿用水と大山川交差点部



本庄の交差点の南に、暗渠になっていた入鹿用水が顔を出す。用水は大山川の下を通って南下している。

14 大泉寺



曹洞宗。寛文年間に春日井市大泉寺町から移転。三十三観音堂横には馬車組合が建立した馬頭観音がある。本堂裏手墓地には海部家の墓がある。

17 余語右近將監墓



この辺りは余語・尾関の姓が多い。余語将監は滋賀県湖北の余呉湖から移住したと伝わる。

18 祥雲寺



曹洞宗。元は三神社の近くにあり神宮寺であった。文化15年(1818)水害で現在地に。明治5年(1872)には、現在の篠岡小学校につながる義校が置かれた。

25 江岩寺



大山寺荒廃後に創建された臨済宗妙心寺派寺院。児神社一帯から出土した古瓦なども所蔵されている。

26 馬頭観音



三面六臂立像、農耕馬供養のために飼い主が建てた「祠」。

27 前山の祠



石仏四体を県道工事の時に移し、その後、愛知用水導入に伴い、現在の場所に落ち着いた。祠にある如意輪観音は道標である。

28 濁池



流れ出た先で鰻谷川と合流し大山川となる。旧道は池の手前から池を巡り春日井へ続いていた。現在は通行できない。

15 馬頭観音



大泉寺参道から東へすぐの街道脇にある馬頭観音。「文明2(1819)卯年」とある。隣の観音菩薩の碑は道標で「西こまき東うつ」と読める。

16 八幡神社



元亀2年(1571)足立亀右衛門建立と伝わる。昭和49年(1974)桃花台団地建設を機にコンクリート製社殿に改築された。境内には三角点や「平和の礎碑」が建てられている。

19 三神神社



延喜式神名帳にある古社で祭神は大縣神社と同じ三神を祀られている。狛犬は昭和18年(1948)とある。水田地帯の小高い丘に建てられているので眺めがよい。

20 辻馬頭観音



二体とも馬頭観音である。目も眉毛もつりあがり、口はキリッと結んでいる。昔から野口の木口地区の人びとに信仰された。

21 神明社



野口下社、昭和34年(1959)の伊勢湾台風以前は五頭の馬が地域を巡り豊作祈願の棒の手が奉納されていた。

22 馬頭観音



大山川南岸に建つ祠に安置され、いつも花が飾られる。右の観音様には「天保一三年村中きく三」とある。

23 八幡社



野口上社、伊勢湾台風以前は神楽殿で神楽や獅子・オマント・棒の手が奉納された。白山社の遷葬所でもある。

24 津島社



この辺りは旧道の面影が残っている。野口と大山の境に祀られている。

